

はなびらたけ

子器ノ斷面ニ於テ子囊下層ハ淡褐色ニシテ炭化セズ
其菌絲ハJニヨリ多少紫色ニ染マル

子囊ハ大サ $50-60 \times 20 \mu$ 胞子ハ橢圓形太サ $16-30 \times 8-10 \mu$

(從テ本誌第三卷第九號第二一〇—二二一頁ノ圖ハたかねいはたけノモノト訂正ス)

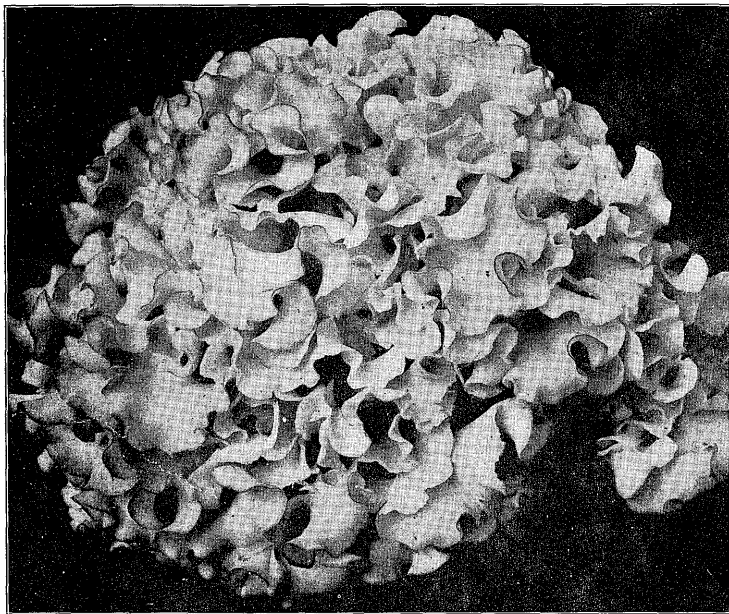
○はなびらたけ

(昭和五年八月三日稿)

理學博士 川 村 清 一

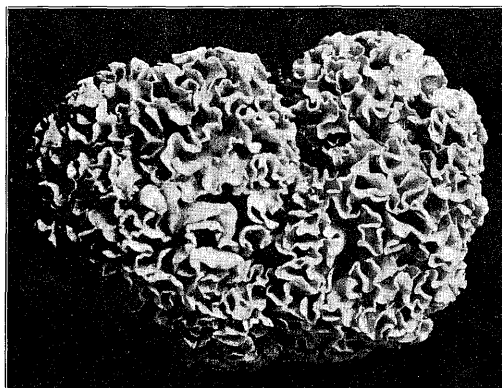
本誌第六卷第十一號(昭和四年十一月發行ノ分)昭和五年七月印刷)ニ朝比奈泰彦博士ガ、舊軒獨語其三十二トシテはらびらたけト題シテ書カレテキル記事ハ誠ニ興味ノアルモノデ、コレニ依テ *Sparassis crispa* (Wulf.) Fr. [= *Sparassis crispa* (Schaeff.) Schroet.] ナル菌ノ和名トシテはなびらたけガ用キラル、ニ至ッタ譯ヤ、獨逸ノ菌學者故 P. Hennings 氏ガ我邦ノ昔ノ菌類圖譜デアル坂本氏菌譜ヤ増島氏菌史ニ載レルまひたけノ圖ニ就テ其菌種ヲ判定シ、前者ヲ *Polyporus frondosus* Fr. トシ、後者ヲ *Sparassis ramosa* (Schaeff.) Schroet. トシタ事ヤ、又後ニ高橋良直氏ガ植物學雜誌ニまひたけノ學名ハ *Polyporus frondosus* ガ適當デ *Sparassis ramosa* ハ不適當デアルト書カレタ事等ガ一般ノ人ニ能クワカリ、又 P. Hennings 氏ガ學名ヲ鑑定シタ菌譜ヤ菌史ニ於ケルまひたけノ圖ヲモ寫眞デ掲ゲテアルカラ讀ンデ誠ニ興味ノアル記事デアアル、朝比奈博士ガ此記事ヲ書カレタ動機ハ先頃秋田縣ノ村田善五郎氏ガ乾燥セル菌ノ一標本ヲ東京ナル津村研究所ニ送ラレタノガ原デアッタ先般博士ニ邂逅シタ時私ニ此事ヲ語ラレ又後ニ村田氏送附ノ乾燥標本ノ寫眞一葉ヲ予ニ贈ラレテ菌種ヲ *Sparassis ramosa* ト思フガ如何ト質サレタニ對シ予ハ貴説ノ通リ *Sparassis ramosa* (= *Sparassis crispa*) ナルモ

はな
びら
たけ



第 一 圖

はなびらけ (*Sparassis crispa* Fr.) 1/2 (川村撮影)



第 二 圖

はなびらたけ (*Sparassis crispa* Fr.)

ノ幼種ナルモノ (實物大) (川村撮影)

ノニ間違ナカルベシト答ヘテ置イタノデアッタ、
本種ハ「拙著日本菌類圖說」(昭和四年十一月發行)
ニモ圖ヲ示シテ記述シテキル通り大正十二年ノ夏
生ノ新シキ標本ヲバ紀州高野山デ採集シテ今デモ
「ホルマリン」漬トシテ標本ヲ所藏シテ居ルガ私ハ

未ダ曾
テ本菌
ノ生ノ
モノヲ
乾燥セ
シメテ
何ンナ
形ノモ
ノニナ
ルカヲ
試メシ
タ事ガ
ナイカ
ラ果シ

はなびらたけ

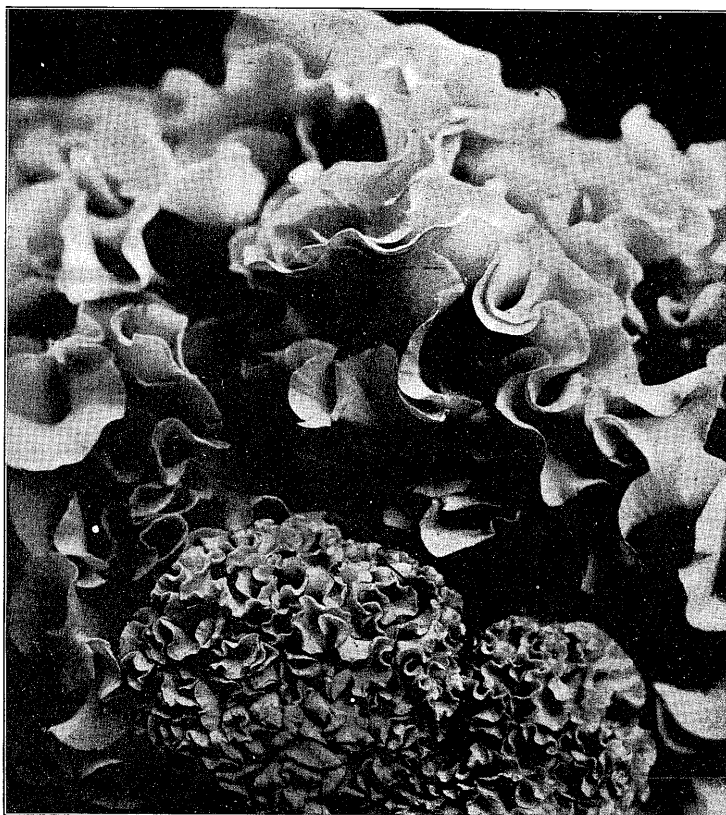
テ秋田産ノ標本ノヤウナ乾物ニナルカドウカ斷言ハ出來ナイガ胞子ノ形狀、大サ等乾燥シテモ變ラナイ顯微鏡的性質ガ一致シテキルカラ秋田縣産ノ標本モ多分はなびらたけ即チ *Sparassis crispa* ノ乾燥セルモノニ違ヒアルマイト思フノデアル

前述ノ如ク私ハ *Sparassis crispa* ニ相違ナイ良キ標本ヲ自ラ採集シ其際直ニ撮影シタ良イ寫眞ヲモ持ッテキルカラ朝比奈博士ガ藋軒獨語ニはなびらたけノ記事ヲ書カレルト知ッタラ、右ノ寫眞ヲ博士ニ提供シテ乾燥標本ノ寫眞ト對照シテ掲ゲテ貰ラッタノデアッタガ夫レガ出來ナカッタカラ茲ニ夫レヲ掲ゲテ本菌ニ就キ記述スルコトニスル

村田氏ヨリ送ラレタ秋田産ノモノニ就テハ朝比奈博士ハ「之ヲ見ルトドウモ歐洲産ノ *S. ramosa* (= *S. crispa*) トハ若干違フヤウデ SWANTON 著 Fungi and How to know them ト云フ書物ノ第二十八圖版ニアル *S. crispa* Fr. ト *S. laninosa* Fr. トニ比ベテ見ルト寧ロ後者ニ充ツベキデハナイカト思フ」ト述ベ又曾テ安田氏採集ノ仙臺産ノモノモ「ソレガ果シテ *S. ramosa* デアッタカ又此秋田産ノモノト同一デアッタカ確メタイモノデアル」ト記シテ居ラレルガ最初博士ハ秋田産ノモノヲ *S. crispa* ト思ハレタノヲ後ニ SWANTON ノ菌類書ニアル圖ヲ參考サレテ別種ノ *Sparassis laninosa* ナルベシトサレタノデハアルガ私ノ愚見デハ夫レハ博士ガ最初ニ見當ヲ附ケラレテキタ通ノ種屬 *S. ramosa* 即チ *S. crispa* トスルノガ正シクテ、後デ思ハレタ *S. laninosa* トスルノハ不適當デハナイカト思ハレル、其理由ハ *S. laninosa* ハ *S. crispa* ニ比シテ lamina ガ大ニシテ非常ニ疎デアルシ (SWANTON ノ書ノ圖ハ四分ノ一ニ縮小シテアルカラ密ニ見エル) 外觀上ノ相違ノ外ニ顯微鏡的性質デハ *S. laninosa* ノ胞子ハ外國産ノ者ニ就テ外國ノ學者ガ橢圓形デ大サ $6 \times 4.5 \mu$ ト測ッテ居ルノニ對照シテ安田學士ガ曾テ陸前仙臺ノ林地デ採リシ標本モ、先般朝比奈博士ノ調べラレタ秋田縣産ノ標本モ、又私が所藏シテキル紀州高野山産ノ標本ノモノモ、皆胞子ノ形ト大サガ全ク符合シ $6.4 \times 4.3 \mu$ ヲ示シテキル、然ルニ

一方 *S. laninosa* ノ孢子 (*C. Rea, British Basidiomycetes, [1922] p. 661 參照*) 球狀デ大サハ徑 8μ デア
 ッテ形ガ異リ且大キイノデアアル、コンナ譯デアルカラ本誌第六卷第十一號ニ朝比奈博士ガ記シテ居ラル、秋田
 縣產ノはなびらたけハ之ヲ生ノ完全ナル標本ニ就テ觀察シナイ限り今ノ處 *S. crispa* ト見立テ、置ク方ガヨク
 ハナイカト愚考スル、同様ニ安田氏採集ノ仙臺產ノ標本モ同氏ノ鑑定通り *S. crispa* (= *S. ramosa*) ニ疑ハ
 ルマイト思フ、尙且 *S. crispa* ガ日本ニ產スルコトハ決シテ疑フ餘地ガ無イノデアアル、私ガ確實ニ *S. crispa* ナ
 リト斷言シ得ルモノヲ採集シタノハ今カラ十七年前ノ大正二年八月十日デアッテ、當時紀州高野山ニ蕈菌類採
 集ノ目的デ約十日間滞在シテキタ折デアッタガ其時直ニ寫眞ニ撮ッタ上標本ハ色ガ白クテ軟カク形ガ美シイノ
 デ此菌ダケハ何トカシテ他ノ採集品ト區別シ特別ニ大切ニシテ東京ヘ持歸リ度イト思ッタカラ之ヲ携ヘテ虎屋
 トイフ藥種店ヘ行ッテ容器ト「フォルマリン」トヲ求メントシタ所其店ニハ容器トシテ都合ノ良イ大形ノ廣口
 壺ガ無カツガ虎屋ノ主人ガ近處ノ菓子屋ノ店先ニ金平糖ヲ入レテ出シテアッタ硝子壺ヲウマク話ヲツケテ讓リ
 受ケテ來テ吳レタノデ完全ナ液浸ノ標本ガ出來タ、然シ其壺ハ共口栓ノ磨リ合セガ不完全ナ粗製品デアッタカ
 ラ傾ケルト液ガ多量ニ口カラ滲ミ出テ歸途伊賀、伊勢ヲ通ル迂回ノ旅デ頗ル厄介ナ荷物トナッタガ夫レダケニ
 意ヲ用キタ甲斐ガアツテ其後常ニ同好ノ士ニ生ノ形ヲ保有セル本菌ノ標本ヲ觀セテ共ニ樂ムコトガ出來ルノデ
 アル、併シ乍ラ若シ夫レヲ採集ノ節、日ニ干シ乾燥標本トシテ置イタナラバ秋田產ノ乾燥標本ト比較スルニハ
 却ッテ都合ガ好カッタカモ知レナイ、元來菌類ノ標本ハ液浸標本モ乾燥標本モ寫眞モ又着色ノ細密ナル實物寫
 生圖モ且又同種ノ標本デモ產地ヤ發生ノ時季ガ異ルモノ、形ノ異レルモノ等可成多數ノ標本ヲ完備セシメテ保
 存スベキガ必要デアルカラ今後同好者仲間ニ於テ本菌標本ノ如キハ多數彙集シテ之ヲ互ニ持寄ッテ他ニ數種ア
 ル同屬ノ別種ノ菌トモ比較研究シタイモノデアアル

茲ニ私ガ確實ニ *Sparassis crispa* ト鑑定スル高野山產ノはなびらたけノ寫眞ヲ掲ゲ、又歐洲產ノ *S. crispa* ノ



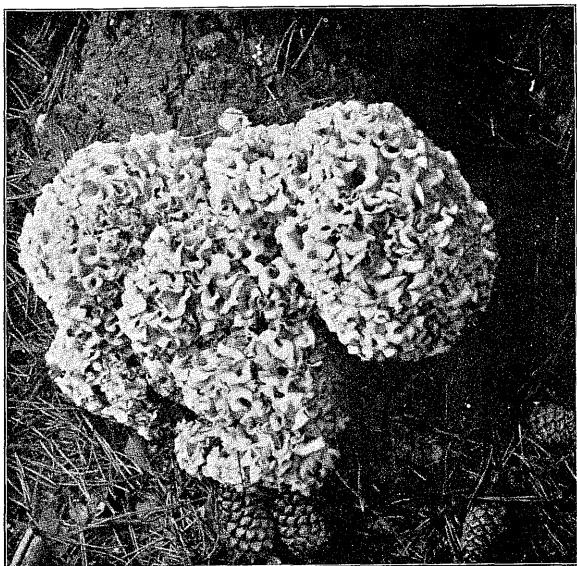
第三圖

はなびらたけ (*Sparassis crispa* Fr.)

成長セルモノト幼稚ナモノトヲ比較ノ爲メ撮影ス、成長セルモノハ中央上部ノミガ寫ッテ居ル、標本ハ大正二年八月紀州高野山デ採集セシモノデ縦樹ノ許ニ生エテ居タモノト見エテ *lamerae* ノ間ニモ

みノ落葉ガ多數挾マッテ居ル (實物大) (川村撮影)

寫眞ヲ The Romance of the Fungus World ノ著者 ROLF 氏ガ自ラ撮影シテ同書ニ載セテキルモノヨリ探リ、東西兩半球ノモノヲ比較ノ爲茲ニ轉載スル、同圖ハ菌ノ傍ニアル松ノ毬果ノ大サカラ見テモ大分縮少シテアルガ私ノ寫眞ノ一ツハ實物約二分ノ一大デアル、本菌ノ大サハ其塊狀ヲ成セル全體ノ徑ガ 10-60 cm. トセラレ又 1-2 feet ノ大サニ達スモノアリ等ト記サレテキルカラ中ニハ頗ル大塊ヲ成セルモノガアルト見エル、本菌ハ私ガ採ッタ標本ノ如ク總テガ



第四圖

Sparassis crispa.

R. T. and F. W. ROLFE / The Romance of the Fungus
World. (1925) カラ複寫ス

殆ンド白色デ端ガ少シク「クリーム」色ヲ帯ビ居ル、本菌ハ普通太イ根ノ様ナ莖ヲ地中ニ持ツモノダガ、J. STEVENSON'S British Fungi (Hymenomyces) Vol. II. (1886) p. 289. ニハ本菌 *Sparassis crispa* ノ記載中ニ“most frequently sessile, more rarely shortly stipitate”トアル、併シ *Clavaria* 屬ノ諸菌等トハ違ッテはなびらたけニハ莖ヲ缺クモノガアリソウニ思ハレナイ位ニ普通ハ巨大ナ根狀ノ莖ヲ地中ニ有シテキルモノデアアル

次ニ本誌第六卷第十一號ニ菌譜、菌史、信陽菌譜等ニ載レル圖デ曾テ獨逸ノ HENNINGS 氏ガ觀テ一ツヲ *Sparassis ramosa* ニ充テ他ヲ *Polyporus frondosus* トシテ鑑定シタトイフまひたけノ圖ガ縮寫轉載サレテキルガ *ramosa* ハ私ガ茲ニ掲ゲタ寫眞ニ就テ觀テモ、何ウシテ之レヲ HENNINGS 氏ガ菌史ニ載レル圖ノモノニ宛テタカ一寸首ヲ傾カセラルコトハ私モ朝比奈博士ト同感デアアル、多分夫レハ菌史ノまひたけノ圖ダケガ他ト變ッテ描カレテキルカラ *Sparassis* 屬ノモノトシ、然シテ *ramosa* ナラ拙ク描ケバ此様ニナルモノト想像ニ依リ簡單ニ考ヘタノニ原因スルノデアラウ、實際我邦ノ古書ニアル菌類ノ圖ニハ描寫ガ不完全デ隨分ヒドイノガアル、前述ノ菌史トハ

はなびらたけ

今カラ百十八年前文化九年ニ増島蘭畹ノ著セルモノ、又信陽菌譜ハ三野伊那菌品ト云フノ同ジ物デ今カラ百三十一年前寛政十一年ニ市岡智寛(佐藏)ガ美濃ト信州伊那地方ノ茸ニ就テ書イタモノ、單ニ菌譜トアルハ紀州ノ坂本浩然(浩雪)ガ天保五年ニ著ハシタモノデ其他ニコンナノガ尙數種アツテ私ハ大概之ヲ所藏シテキルガ、怡顏齋菌品トイフノハ寶曆十一年京ノ松岡玄達ノ著デ、私ガ所藏セル此種ノ書中最モ古いモノノ一デアルガ、コレト來テハトモオ話ニナラヌヒドイモノデアル、併シ是等ノ古書ニアル菌名中一般のデナイモノデモ現今モ或地方ニ方言トシテ傳ハツテキルモノガアツテ是等古書ノ菌類中種屬不明ノモノガ其地方ヘ行ツテ採集シテ明確ニ種屬ノ判明シタモノガアル、例ヘバ坂本氏菌譜ニアルしゃうげんじト云フノハ其説明ノ文句カラ信陽菌譜ニしゃううんじ、じやうけんじ等トシテ載セテアルモノヲ原ニシタモノト考ヘラレ、信陽菌譜ノ著者市岡氏ガ信州飯田久々里陣屋ノ人デアツタカラ私ハ大正元年十月中旬信州飯田ニ行ツテ取調べタラ同地方デ昔カラ美味ナル食菌トシテ採ツテ喰ツテキル稠菌科ノ *Pholiota caperata* (Pers.) Fr. デアルコトガ判ツタ如キハ其一例デアル

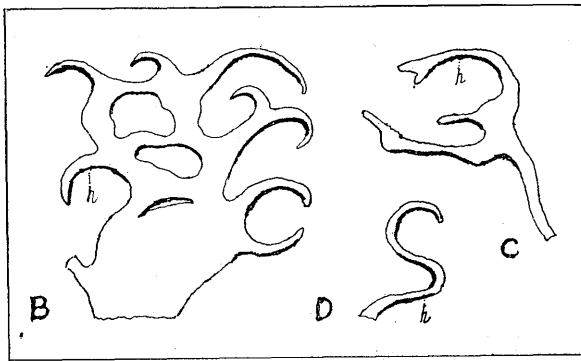
併シ面喰ツタノハにぎりだけデアツタ、坂本氏ノ菌譜ニにせしめぢ *Entoloma lividum* (Bull.) Fr. (有毒) デモアラウカト思ハル、圖ヲ示シテ「モシ人コレヲ手ニテ握トキハ則チ瘦セ縮ム放ツトキハ忽チ勃起ス」ト記シテアツテ是亦三野伊奈菌品ニ據ツテキテ其ノ説明ヲ讀ムト「初生嫩時類男陽握之則痿縮放之則勃然怒起故名之」トアツテ示サレテキル圖ハ眞ニ陽莖ソックリノ形ト色ニ菌ヲ描イテアルノニ驚イテ、コンナ菌ハ未ダ見タコトガ無いノデ手ノ附ケ様モ無カッタガ、後牧野先生ガ飛彈ニ行カレタ時、現時デモ同地方デチャントにぎりたけト稱シテ居ル菌ノアルコトガ判リ、送ラレタ生標本ヲ手ニシテ見レバ夫レガからかさたけ *Lepiota procera* (Scop.) Quér. ノコトデアツタ事ガ判明シテ、成程茸ノ性質ガ綿細工ノ様ニ軟カクテ掌中ニ蓋ヲ握ツタ後、之ヲ放セバ元ノ通トハ行カヌガ他ノ一般ノ茸ト異リ彈力性ガアツテ能ク膨クレルカラ古來握茸ノ名ガアルノデ、莖ノ細長イ茸デアル本菌ノ形ヲ顧ミズ想像ニ依リ陽莖ニ模シタ莖ノ太短カイ形ノ茸トシテ圖ニ現ハシタモノト知ツタノデ、昔ノ菌譜類ハ大ニ用心シテ之ヲ參考ニスルコトニシテキルガ各地ニ於ケル菌ノ方言ヲ調べタリ同種ノ菌デモ形ノ變レルモノニツキ注意スルト古ノ菌書中ノ誤レルモノ正シキモノ等ノ内容ガ大概判ルノデアアル *Sparassis crispa*、英語デ *Cauliflower-Fungus* ト呼ブガ實際本菌ノ幼稚ナモノ、形態ハ勿論稍「クリーム」色

ヲ帶ビテキル其ノ色迄西洋野菜ノ Cauliflower ニ能ク似テ居ル、私ガ高野山デ成長セルモノト同時ニ採ツタ幼稚ナ標本トヲ此度液浸ノ儘寫眞ニ撮ツタ玆ニ御目ニカケル、コレハ未ダ幼稚デ frond ガ compact デ lamina ガ伸ビナイ形ノモノデアル、歐米デ本菌ガ花椰菜ヤ海綿ニ酷似シテキルト謂ハレルノハ生長ノ此程度ニアルモノガ能ク其特徴ヲ現ハシテキルカラデアル、朝比奈博士ガ參考サレタ SWANTON'S Fungi and How to know them トイフ書ノ第二十八圖ニ出テキル Sparassis crispa ト S. lamnosa ノ寫眞ハ共ニ充分 frond ガ伸ビキラナイ形ノモノデアルコトハ私ガ所藏スル老幼二ツノ標本ヲ液藏ノマ、壞ノ外カラ寫眞ニ撮ツタ玆ニ掲グルモノト比較スルト丁度 SWANTON ノ書中ノ寫眞ノモノハ此二者ノ中間ノ stage ニアルモノタルコトガ判ルト思フ、本菌ハ肉眼的の外觀カラシテモ同屬ノ他種ト劃然區別シ得ベキ特徴ヲ持ッテ居ルノデ米國ノ菌類學者 HARD 氏ハ氏ノ著述書ニ S. crispa ニ就テハ特ニ "No one will have any trouble to recognize it, having once seen its photograph" ト記シテ居ル位デアル

Sparassis crispa ト S. lamnosa トハ前ニ述ベタ通り相當相違ノアルモノデハアルガ單ニ寫眞デ見ル外觀デハ、S. crispa デモ花瓣狀ナル lamina ガ大ニシテ疎ニナツテキル、成長シキタ標本ヤ或ハ結實體ノ一部分ニ lamina ガ「ルーズ」ニ出來テキルモノ等ハ S. lamnosa ニ似タ形態ヲ現セルコトガアツテ crispa ノ lamina ガ本來ガ小サク、多數デ且甚ダ密ニ塊狀ニ集マツテキルノニ比シテ別種ナランカラ疑ハシムル場合ガアル、加奈太ノマニドハ大學教授 BUTLER 氏ノ著 Researches on Fungi, Vol. II. (1922) p. 188. ニ載セルモノハ英國デ一婦人ガ撮ツタ寫眞デ、結實體ノ上部ノ一方ガ S. crispa ノ形ヲ呈シ他ノ一方ガ S. lamnosa ノ形ヲ呈シテキル Sparassis ノ標本デアル、コレハ無論一種ノモノデアツテ只結實體ノ兩側ガ互ニ生長ノ遲速ニ相異ヲ生ジタノデアラウ、コンナコトハ他ノ菌ニモ屢々アルコトデアル、右 BUTLER ノ示セル寫眞ノ菌ハ果シテ何種ニ屬スルカハ詳シイ形態上ノ記載ヤ胞子ノ形狀大サ等モ示シテナイカラ私ハ之ヲ見テ直ニ種ヲ確實ニ判定シ兼ルガ寫眞デ觀タ限リデハ S. crispa デハナイカト思ハレル

次ニ Sparassis 屬ノ分類學上ノ位置ニ就テハ從來歐米各國ノ菌類學者ガ殆ンド皆之ヲ帚茸科 Clavariaceae ニ入レテキルガ、獨リ英國キュー植物園ノ菌類學者 COTTON 氏ハ Sparassis ノ lamina ノ下面ノニ Hymenium ガアツテ上面ハ裸面デアルカラ、彼ノ Clavaria ノ樹枝狀ナル frond ノ上部ニハ周圍ノ表面ニ Hymenium ヲ

はなびらたけ



第五圖

BULLER'S Reserches on Fungi, II. = 載レル圖

はなびらたけノ Frond ノ斷面

發達シテキルノト趣ガ大分違フカラ之レハいぼたけ科 *Thelophoraceae* ニ屬セシメテ、うるこたけ屬 *Stereum* ノ隣ノ邊ニ置クノガ至當デアルトノ説ヲ On the Structure and Systematic Position of *Sparassis*. ト題シテ Transaction of the British Mycological Society, Vol. III. (1912) pp. 333-339. ニ載セタノデ、此説ニ從ッテ分類スル人ガ出來タ、即チ英國ノ CARLETON REA 氏ノ如キハ氏ノ著 British Basidiomycetae (1922) ニハ、*Sparassis* 屬ヲバ、いぼたけ科 *Thelophoraceae* ニ入レテ *Stereum* ノ隣ニ置イテキル、此書ハ英國菌類學會デ推獎シテキル位ノ書ダカラ之レニ做テ本菌屬ヲ分類スル人ガ多クナルノデアラウ、併シ乍ラ *Hymenium* ガ *lamera* ノ下面ダケニ發達シテキルノハ是レ胞子ノ散布ニ都合ノヨイ様ニ地球ノ重力ノ關係上、下面ヲ選ンデ出來ルノデ、*frond* ガ扁平 *lamera* ヲ呈シテキルカラ斯クアルノデアッテ *Clavaria* ノ如ク直立セル樹枝狀ノモノデハ *frond* ニ上下面ヲ現ハサナイカラ胞子ハ周圍ニ生ズル迄デアラウ、BULLER 氏ハ之ニ關聯シタ事項ノ興味アル觀察ト實驗ヲシテ *Researches on Fungi*, Vol. II. pp. 188-190. ニ載セテキル、即チ *G. crispa* ノ *lamera* ノウネクネシテキルモノニ就テ觀ルト *Hymenium* ハ決シテ *lamera* ノ一片側面ニ限ッテアルノデハナク、兩面共下ニ面セル側ニアル、S 字狀ニ屈曲シテ直立セルモノデハ左右兩側面共、下方ニ面セル側ニ *Hymenium* ガアル、即チ茲ニ轉載スル菌ノ斷面圖(第五圖)ニ於テ太キ線ノ部分ニ *Hymenium* ガアルコトヲ示スノデアル、又

BULLER 氏ハ曾テ英國キユー植物園ニ在リテ研究セル際、(氏ハ加奈太カラ屢々英國倫敦郊外キユー植物園ニ來リ研究シテキルノデ私ガ大正十二年夏キユーニ居タ時モ氏ノ指導ヲ仰ギ CORON 氏ト共ニ園内ニアル大キナニレ樹ノ洞穴中ニ生セル *Fomes* ノ胞子ノ散布狀態ヲ日光ヲ巧ニ利用シテ觀察シタコトガアル、氏ガ偶々人ヨリ貰ッタ *S. crispata* ノ結實體ノ徑十吋モアル新シキ標本ヲ用キテ之ヲ顯微鏡ノ覆ニ使用シテキタ硝子箱ヲ利用シテ其中ニ菌ヲ逆ニツルシ二日ノ後觀タ處、常ニハ上向デ *Hymenium* ノ無イ *lamina* ノ上面ガ、逆ニ垂ルサレテ下ニ面シテ居タ爲メ *Hymenium* ガ出來テ居ルノヲ實驗シタノデアアル

コレハ直立セル樹幹ニ水平ノ位置ニ生エテ居ル *Fomes pinicola* 等ガ、寄着セル樹ガ地上ニ倒フレタ結果垂直ノ位置トナツタ後ニハ菌體上ニ新ニ夫レト直角ニ水平ノ方向ニ結實體ガ發達スルノト同ジ理由ニ依ルモノデアアル、終リニはなびらたけハ一種ノ香氣ガアリ味ハ非常ニ美味デアルトノコトデアアルガ澤山ニ探レナクテ容易ニ賞味スルコトガ出來ナイノガ遺憾デアアル

○人 蔘

藥學博士 刈 米 達 夫

昔ハ一本ノ價ガ娘一人ニ匹敵シタ人蔘モ今ハ大量生産ガ行ハレ日本ノ内地ダケデ年産十五萬斤、朝鮮モ略同

本邦内地産額		朝鮮産額		輸出額	
數量(斤)	價格(圓)	數量(斤)	價格(圓)	數量(斤)	價格(圓)
一七六三三〇	五七七一五八	一一一〇〇五	一八七六八〇	七七〇〇〇	四一〇〇三
一二二六二一	六五八三九五	一五四三三七	二一八九〇〇	七〇〇〇〇	二九七〇三
一六二五二三	八四九六四一	九七三三〇	一六四八〇一	三九三〇〇	五二九七八
同				一五〇〇〇	二五二九一
昭和元年				四〇〇〇〇	一五八四
同				二五〇〇〇	
二年				五〇〇〇〇	
三年				一五〇〇〇	

人 蔘

額、遠クハアメリカカラモ支那ニ輸出サレル、内地デ人蔘栽培ノ盛ンナノハ福島縣ヲ最ト